

SilkTest® 2010 R2

SilkTest Recorder クイック スタート チュートリアル

**Borland Software Corporation
4 Hutton Centre Dr., Suite 900
Santa Ana, CA 92707**

Copyright © Micro Focus IP Development Limited 2009-2011. All Rights Reserved. は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます。Copyright © Borland Software Corporation (a Micro Focus company) 2009-2011.

MICRO FOCUS, Micro Focusロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

BORLAND, Borlandロゴ及び は Borland Software Corporation またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

目次

SilkTest Recorder クイック スタート チュートリアル	4
SilkTest Recorder を起動する.....	4
Insurance Company Web サイトのテスト ケースを記録する.....	4
Insurance Company Web サイトのテスト ケースを再生する.....	6
テスト ケースまたはプロジェクトをエクスポートする.....	6
プロジェクトを Silk4J にエクスポートする.....	7
テスト メソッドを Silk4J にエクスポートする.....	7
プロジェクトを SilkTest Classic にエクスポートする.....	8
テスト ケースを SilkTest Classic にエクスポートする.....	9
Silk4NET プロジェクトをエクスポートする.....	9
Silk4NET テストをエクスポートする.....	10
Insurance Company Web サイトのテスト ケースを変更する.....	11

SilkTest Recorder クイック スタート チュートリアル

このチュートリアルでは、Web サイトのテストに SilkTest Recorder を使用できるよう、ステップごとに導入手順を説明します。Recorder は動的オブジェクト解決を使用して、オブジェクトを検索し識別する XPath クエリを使用した、テスト ケースの記録、再生を行います。

Recorder は次の種類のアプリケーションのテストを記録/再生できます：

- Adobe Flex
- Java AWT/Swing
- Java SWT
- SAP
- Windows API ベースのクライアント/サーバー (Win32)
- Windows Forms
- Windows Presentation Foundation (WPF)
- xBrowser (Web アプリケーション)

説明をより簡潔にするため、本ガイドでは、Recorder がすでにインストールされており、サンプルの Insurance Company (保険会社) Web サイト (<http://demo.borland.com/InsuranceWebExtJS/>) を使用することを前提としています。

Recorder に関する追加の情報については、Recorder ヘルプを参照してください。ヘルプを参照するには、Recorder を開いて、**ヘルプ** > **ヘルプ目次** を選択します。

SilkTest Recorder を起動する

スタート > **すべてのプログラム** > **Silk** > **SilkTest <バージョン>** > **SilkTest Recorder** を選択します。

Recorder が開き、SilkTest Open Agent アイコンが通知領域に表示されます。

Insurance Company Web サイトのテスト ケースを記録する

Recorder がどのようにしてテストを作成するのかを確認するために、Insurance Company サンプル Web サイトのテスト ケースを記録します。

1. 次のいずれか 1 つのステップを行います：

- ツールバーの ● をクリックします。
- **記録 > 記録の開始** を選択します。

新規アプリケーション構成 ウィザードが開きます。

2. **Web サイト テスト構成** をダブルクリックします。

新規 Web サイト構成 ページが開きます。

3. **ブラウザーの種類** リスト ボックスから、**Internet Explorer** を選択します。

Firefox はテストの再生には使用することができますが、記録には使えません。

4. 次のいずれか 1 つのステップを行います：

- **既存のブラウザーを使用する**：テストを構成する際に、すでに開いているブラウザを使用する場合には、このオプション ボタンをクリックします。たとえば、テストしたい Web ページがすでにブラウザ上に表示されている場合などに、このオプションを使用します。
- **新しいブラウザーを開始する**：テストを構成する際に、新しいブラウザインスタンスを開始する場合には、このオプション ボタンをクリックします。次に、**ブラウズする URL** テキストボックスで、開く Web ページを指定します。

このチュートリアルでは、開いているブラウザをすべて閉じてから、**新しいブラウザーを開始する** をクリックして、<http://demo.borland.com/InsuranceWebExtJS/> を指定します。

5. **終了** をクリックします。

Web サイトが開きます。Recorder は基本状態を作成し、記録を開始します。

6. Insurance Company Web サイトでは、次のステップのいずれかを行います：

a) **Select a Service or login** リスト ボックスから、**Auto Quote** を選択します。

Automobile Instant Quote ページが開きます。

b) 郵便番号と電子メールアドレスを適切なテキストボックスに入力し、自動車タイプをクリックして、**Next** をクリックします。

このチュートリアルの各ステップに従うため、郵便番号に **92121**、電子メールアドレスに **jsmith@gmail.com** をそれぞれ入力し、自動車タイプとして **Car** を指定します。

c) 年齢を指定し、性別と運転履歴タイプをクリックして、**Next** をクリックします。

たとえば、年齢に **42** を入力し、性別と運転履歴タイプに **Male** および **Good** をそれぞれ指定します。

d) 製造年、車種、モデルを指定し、財務情報タイプをクリックして、**Next** をクリックします。

たとえば、製造年に **2010** と入力し、車種とモデルに **Lexus** および **RX400** をそれぞれ指定し、財務情報タイプとして **Lease** を指定します。

指定した情報の概要が現れます。

e) 指定した **Zip Code** をポイントし、**Ctrl+Alt** を押して、スクリプトに検証を追加します。

表示されたどの情報に対しても、検証を追加することができます。

プロパティの検証 ダイアログ ボックスが開きます。

f) **textContents** チェック ボックスをオンにし、**OK** をクリックします。

検証操作が、郵便番号テキストに対するスクリプトに追加されます。

各ステップに相当する操作が記録されました。

7. Recorder で、次のステップのいずれかを行います：

- ツールバーの  をクリックします。
- **記録 ▶ 記録の停止** を選択します。

8. **ファイル ▶ 保管** を選択します。

- a) テストを保管したい場所へ移動します。
- b) **ファイル名** テキスト ボックスに、テストの名前を入力してから、**保存** をクリックします。
たとえば、**ZipTest** と入力します。


テストが期待通りの動作をするか確認するためにテストを再生します。必要な場合には変更をするために、テストを編集することも可能です。

Insurance Company Web サイトのテスト ケースを再生する

テストが期待どおりの動作をするか確認するためにテストを再生します。

1. メインウィンドウで、**再生速度** リストボックスから、テストを再生するために使用する速度を選択します。
 - **速い**：このオプションを選択すると、テストを最も速い速度で再生します。スクリプトは実際の速度で実行されます。その他の速度は、遅延機構を使用するため、テストを確認しながら実行することができます。
 - **普通**：通常、このオプションを選択すると、各操作を確認できるようになります。
 - **遅い**：各操作が確認できることを確実にするためには、このオプションを選択します。

再生速度 リスト ボックスの後ろにある **再生時間** の時間を確認して、テストの速度を決定できます。

2. テスト全体を再生するには、ツールバーの  をクリックするか、または **再生 ▶ すべて再生** を選択します。
Recorder は、テストを再生します。
3. エラーが発生した場合は、次のステップのいずれかを行います：
 - **再試行** をクリックして現在の操作を再生します。
 - **停止** をクリックしてテストを終了します。
 - **スキップ** をクリックしてテストの次の操作に進めます。


SilkTest、Silk4NET、または Silk4J で使用するためにテストをエクスポートします。または、必要に応じて変更をするために、テストを編集します。

テスト ケースまたはプロジェクトをエクスポートする

以下の手順に従って、テスト ケースまたはプロジェクトを SilkTest Classic、Silk4NET、または Silk4J にエクスポートします。

プロジェクトを Silk4J にエクスポートする

テストの主要 GUI として Silk4J を使用したり、テスト メソッドを整理したりするために、プロジェクトをエクスポートします。

1. **ファイル > エクスポート** を選択します。
エクスポート ウィザードが開きます。
2. **Silk4J プロジェクトとしてエクスポート** をダブルクリックします。
Silk4J プロジェクトとしてエクスポート ページが開きます。
3. **プロジェクトの場所** テキスト ボックスに、プロジェクトをエクスポートする場所を指定します。
任意:  をクリックし、使用するフォルダに移動します。
4. **プロジェクト名** テキスト ボックスに、プロジェクト名を指定します。
たとえば、**Web Sample Project** と入力します。
5. **パッケージ** テキスト ボックスに、パッケージ名を指定します。
たとえば、**com.example** と入力します。
6. **テスト クラス** テキスト ボックスには、テストが属するクラス名を指定します。
たとえば、**AutoTests** と入力します。
7. **テスト メソッド** テキスト ボックスに、テスト メソッドの名前を指定します。
たとえば、**TestAutoInput** と入力します。
8. **ファイル エンコード** リスト ボックスから、使用するファイル エンコードの種類を選択します。
9. **終了** をクリックします。

Recorder は、プロジェクトを作成し、Silk4J にエクスポートします。

プロジェクトを Silk4J にインポートします。新しいプロジェクトは、基本状態やテスト メソッドも含んでおり、いつでもテストできます。プロジェクトのインポートに関する詳細については、『*Silk4J ユーザーガイド*』を参照してください。

テスト メソッドを Silk4J にエクスポートする

テストの主要 GUI として Silk4J を使用したり、クリップボードに JTF スクリプトをコピーしたりするために、テスト メソッドをエクスポートします。

1. **ファイル > エクスポート** を選択します。
エクスポート ウィザードが開きます。
2. **JTF スクリプトとしてエクスポート** をダブルクリックします。
JTF スクリプトとしてエクスポート ページが開きます。
3. **エクスポート先** リスト ボックスから、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **クリップボード** : JTF スクリプトをクリップボードにコピーします。既存の JTF スクリプトにスクリプトをコピーして貼り付ける場合にこのオプションを選択します。
 - **JTF スクリプト** : スクリプトを Silk4J にエクスポートします。新しいスクリプトを作成したり既存の JTF スクリプトを上書きする場合にこのオプションを選択します。
4. **テスト メソッド** テキスト ボックスに、テスト メソッドの名前を指定します。

たとえば、**TestAutoInput** と入力します。


5. **パッケージ** テキスト ボックスに、パッケージ名を指定します。

たとえば、**com.example** と入力します。

6. **テスト クラス** テキスト ボックスには、テストが属するクラス名を指定します。

たとえば、**AutoTests** と入力します。

7. **ソース・フォルダー** テキスト ボックスには、テストをエクスポートする場所を指定します。

任意:  をクリックし、使用するフォルダに移動します。

8. **ファイル エンコード** リスト ボックスから、使用するファイル エンコードの種類を選択します。

9. エクスポートしたスクリプトに基本状態を含めるには、**基本状態を使用する** チェック ボックスをオンにします。

基本状態を使用すると、テストするアプリケーションがフォアグラウンドで実行中であることを保証できます。これにより、テストが常に同じアプリケーション状態で開始されることが保証され、信頼性が高まります。基本状態を使用するには、メイン ウィンドウの外観、およびテストするアプリケーションが実行されていない場合のアプリケーションの起動方法を指定する必要があります。基本状態の作成は任意です。ただし、ベストプラクティスとして、基本状態を作成することをお勧めします。

JTF にエクスポートする場合は、`silk4j.settings` というファイルが基本状態用に別途作成されます。クリップボードにエクスポートする場合は、Before メソッドが基本状態を含みます。

10. **終了** をクリックします。

Recorder は、Java 言語を使用するスクリプトを作成し、Silk4J またはクリップボードにエクスポートします。

プロジェクトを SilkTest Classic にエクスポートする

主要 GUI として SilkTest Classic を使用したり、テストケースをプロジェクトにグループ化するため、または SilkCentral Test Manager などの他の製品とデータを共有するために、プロジェクトをエクスポートします。


1. **ファイル > エクスポート** を選択します。

エクスポート ウィザードが開きます。

2. **SilkTest プロジェクトとしてエクスポート** をダブルクリックします。

SilkTest プロジェクトとしてエクスポート ページが開きます。

3. **プロジェクトの場所** テキスト ボックスに、プロジェクトをエクスポートする場所を指定します。


任意:  をクリックし、使用するフォルダに移動します。

4. **プロジェクト名** テキスト ボックスに、プロジェクト名を指定します。

たとえば、**Web Sample Project** と入力します。

5. **4Test スクリプト** テキスト ボックスに、スクリプト ファイルの名前を指定します。

たとえば、**AutoTests.t** と入力します。

任意:  をクリックし、使用するフォルダに移動します。

6. **テスト ケース** テキスト ボックスには、テスト ケースの名前を指定します。

たとえば、**testAutoInput** と入力します。

7. テスト ケースをエクスポートしたあとに SilkTest Classic を開始するには、**エクスポートしたプロジェクトを SilkTest で開く** チェック ボックスをオンにします。
8. **終了** をクリックします。

Recorder は、4Test 言語を使用するスクリプトとリカバリ ファイルを含んだプロジェクトを作成し、プロジェクトを SilkTest Classic にエクスポートします。

SilkTest Classic を使用してエクスポートしたプロジェクトで作業することができます。新しいプロジェクトは、基本状態やテスト ケースを含んでおり、テストの準備が整っています。

テスト ケースを SilkTest Classic にエクスポートする

主要 GUI として SilkTest Classic を使用したり、クリップボードにスクリプトをコピーしたりするために、テスト ケースをエクスポートします。

1. **ファイル > エクスポート** を選択します。
エクスポート ウィザードが開きます。
2. **4Test スクリプトとしてエクスポート** をダブルクリックします。
4Test スクリプトとしてエクスポート ページが開きます。
3. **エクスポート先** リスト ボックスから、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **クリップボード** : スクリプトをクリップボードにコピーします。既存の 4Test スクリプトにスクリプトをコピーして貼り付ける場合にこのオプションを選択します。
 - **4Test スクリプト** : スクリプトを SilkTest Classic にエクスポートします。新しいスクリプトを作成したり既存のスクリプトを上書きする場合にこのオプションを選択します。
4. **テスト ケース** テキスト ボックスには、テスト ケースの名前を指定します。
たとえば、**testAutoInput** と入力します。
5. **4Test スクリプト** テキスト ボックスに、スクリプト ファイルの名前を指定します。
たとえば、**AutoTests.t** と入力します。
任意 : **...** をクリックし、使用するフォルダに移動します。
6. テスト ケースをエクスポートしたあとに SilkTest Classic を開始するには、**エクスポートしたスクリプトを SilkTest で開く** チェック ボックスをオンにします。
7. **終了** をクリックします。


Recorder は、4Test 言語を使用するスクリプトを作成し、SilkTest またはクリップボードにエクスポートします。

Silk4NET プロジェクトをエクスポートする

Silk4NET テストをエクスポートして、主要プログラム言語として VB.NET や C# を使用する新しい Visual Studio プロジェクトを作成します。

1. **ファイル > エクスポート** を選択します。
エクスポート ウィザードが開きます。
2. **Silk4NET プロジェクトとしてエクスポート** をダブルクリックします。

Silk4NET プロジェクトとしてエクスポート ページが開きます。

- 3. プログラム言語** リスト ボックスから、プロジェクトのプログラム言語として VB.NET または C# を選択します。
- 4. プロジェクトの場所** テキスト ボックスに、プロジェクトをエクスポートする場所を指定します。
任意:  をクリックし、使用するフォルダに移動します。
- 5. プロジェクト名** テキスト ボックスに、プロジェクト名を指定します。
たとえば、**VB.NET Sample Project** と入力します。
- 6. 名前空間** テキスト ボックスに、プロジェクトのコンテナ名を指定します。
- 7. テスト クラス** テキスト ボックスには、テストが属するクラス名を指定します。
たとえば、**AutoTests** と入力します。
- 8. テスト メソッド** テキスト ボックスに、テスト メソッドの名前を指定します。
たとえば、**TestAutoInput** と入力します。
- 9. 終了** をクリックします。


Recorder は、VB.NET または C# 言語を使用するテストを含んだプロジェクトを作成します。

Visual Studio または C# エディタを使用してエクスポートしたプロジェクトで作業します。新しいプロジェクトは、基本状態やテスト ケースを含んでおり、テストの準備が整っています。

Silk4NET テストをエクスポートする

Visual Studio プロジェクトに追加可能な Silk4NET テストをエクスポートします。エクスポートの設定中に、VB.NET または C# のいずれのテストを作成するかを選択できます。さらに、クリップボード機能を使用すると、記録したテスト ステップをコピーして既存の Silk4NET テストに貼り付けることができます。

- 1. ファイル > エクスポート** を選択します。
エクスポート ウィザードが開きます。
- 2. NTF スクリプトとしてエクスポート** をダブルクリックします。
NTF スクリプトとしてエクスポート ページが開きます。
- 3. エクスポート先** リスト ボックスから、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **クリップボード** : 記録したテスト ステップをクリップボードにコピーします。既存の Silk4NET テストにテスト ステップをコピーして貼り付ける場合に、このオプションを選択します。
 - **NTF スクリプト** : 記録したテスト ステップを Silk4NET テストとしてエクスポートして、既存の Visual Studio プロジェクトに追加できます。新しいテストを作成したり、既存の Silk4NET テストを上書きする場合に、このオプションを選択します。
- 4. プログラム言語** リスト ボックスから、テストのプログラム言語として VB.NET または C# を選択します。
- 5. テスト メソッド** テキスト ボックスに、テスト メソッドの名前を指定します。
たとえば、**TestAutoInput** と入力します。
- 6. 名前空間** テキスト ボックスには、テストのコンテナ名を指定します。
- 7. テスト クラス** テキスト ボックスには、テストが属するクラス名を指定します。
たとえば、**AutoTests** と入力します。
- 8. ソース・フォルダー** テキスト ボックスには、テストをエクスポートする場所を指定します。

任意:  をクリックし、使用するフォルダに移動します。

9. エクスポートしたスクリプトに基本状態を含めるには、**基本状態を使用する** チェックボックスをオンにします。

基本状態を使用すると、テストするアプリケーションがフォアグラウンドで実行中であることを保証できます。これにより、テストが常に同じアプリケーション状態で開始されることが保証され、信頼性が高まります。基本状態を使用するには、メイン ウィンドウの外観、およびテストするアプリケーションが実行されていない場合のアプリケーションの起動方法を指定する必要があります。基本状態の作成は任意です。ただし、ベストプラクティスとして、基本状態を作成することをお勧めします。

10. **終了** をクリックします。



Recorder は、Silk4NET テストにエクスポート、もしくは記録したテストステップをクリップボードにコピーします。

Insurance Company Web サイトのテスト ケースを変更する

テスト ケースを記録した後で、このステップを実行してテストを手動で変更します。たとえば、追加の操作を記録したり、記録したステップの順序を変更したり、特定の操作のパラメーターを変更したりできます。

1. 変更したいテストを開きます。
2. テストしている Web ページで、最初に記録を行った時の最後のウィンドウに移動します。
たとえば、既存のテストが複数の Web ページを含んでいる場合には、テストの最後のページに移動します。

ここでは、既存のテストの記録が **Automobile Instant Quote** の概要ページで終了していますが、**ホーム** ページに戻って記録を開始します。つまり、記録を開始すると基本状態によって自動的に戻ります。

3. 変更を記録するには、次のステップを実行します：
 - a) ツールバーの  をクリックします。
 - b) **Select a Service or login** リスト ボックスから、**Agent Lookup** を選択します。
Find an Insurance Co. Agent ページが開きます。
 - c) ツールバーの  をクリックします。
4. 既存の操作、パラメーター、またはロケーター文字列を変更するには、次のステップを行います：
 - a) 操作グリッド内の変更したい行をクリックします。
たとえば、メール アドレスのパラメータに対する **SetText** 操作を含む行をクリックします。
操作の詳細 タブには、**ロケーター**、**操作**、および **パラメータ** が表示されます。
 - b) ロケーターを変更するには、**ロケーター** テキスト ボックスに文字列を入力します。
ロケーター文字列によってテストしたいオブジェクトが識別されます。
 - c) **ロケーターの検証** をクリックします。
Recorder は、新しいロケーターを検証します。文字列が有効でない場合やオブジェクトが見つからない場合には、エラーが表示されます。

d) 操作を変更するには、**操作** リストから操作を選択します。


e) パラメーターを変更するには、適切なテキスト ボックスにパラメーターの値を入力します。

たとえば、**SetText** 操作の **text** パラメータを "**tutorial@yourcompany.com**" に変更します。
行った変更は直ちに操作グリッドに反映されます。

5. 操作を手動で追加するには、次のステップを行います：

大抵の場合、テストに追加したい操作を記録します。しかし、既存の操作を手動でコピー & ペーストして操作を追加してから、変更することもできます。

a) **操作** リストの操作をクリックします。

 **注：** **Ctrl** または **Shift** を押してからコピーする操作をクリックすると、複数の操作を挿入することができます。

b) 次のいずれか 1 つのステップを行います：

- **編集** > **選択した操作のコピー** を選択してから、**編集** > **操作の貼り付け** を選択します。
- **Ctrl+C** を押してから、**Ctrl+V** を押します。

新しい操作が選択した操作の下に表示されます。

c) 操作の詳細ビューで、ロケーター、操作名、またはパラメーターを必要に応じて変更し、要求に合致するように操作を変更します。

6. ファイル > **保管** を選択します。

テストが期待通りの動作をするか確認するためにテストを再生します。

索引

S

SilkTest Recorder を起動する 4

え

エクスポート

 Silk4NET テスト 10

 Silk4NET プロジェクト 9

 テスト ケースを Silk4J に 7

 テスト ケースを SilkTest Classic に 8, 9

き

基本状態

 記録／再生の前に実行 11

記録

 追加操作 11

 テスト ケース 4

て

テスト ケース

 エクスポート 7, 8, 9, 10

 記録 4

 変更 11

テスト ケースの再生 6